

大阪大会 公民的分野 振り返り

公民的分野専門委員長 岐阜市立長森中学校 前島久恵

1 大会主題

『一人ひとりの未来につながる社会科の創造』

～問い・探究、そして参画へ～

2 大阪府の研究提案より

「超スマート社会 (Society5.0) など、急速な技術革新による社会構造の変革や人口減少・高齢化・地球環境問題といった様々な課題が山積し、たった数年後の未来のことなど誰にも予測できない「VUCA の時代 (不安定性・不確実性・複雑性・曖昧性)」が到来している。このような時代を生きる子どもたちに、社会科としてどのような力を育成し、公民的資質を身につけさせ、自身が未来を創りだせるように考えられるようになることこそが社会科教師の責務であると考え。そこで、めざす生徒像を①未来を考え出せる生徒、②多様性を認め、協働する力をもつ生徒、③問題を提起し、問題解決の道筋を立てられる生徒、の3点とし、研究を進めている。

特に公民的分野では『チェンジメーカー=自分のいる場所でより良い変化を起こそうとする人』とし、「チェンジメーカーとしての自分」を、単元を構成する軸に置き、その資質として「内省・自覚」「合意形成」「行動」の3つを社会参画力として育成していくことを重点とした。

3 公開授業に関わって

【公開授業Ⅰ】大阪市立天王寺中学校 大島 翔太 教諭 「経済のしくみと消費」

「なぜ買い物は投票と言われるのだろうか」という各授業の問い (SQ) のもと、その理由を資料から考察し、説明できるようになることがねらいの授業だった。まず、消費者が会社の商品を選び、購入することで会社は成長し、逆に商品が選ばれないと、会社は倒産する可能性があることを全体で押さえた上で、「買い物にはどのような力があるのか」を資料から読み取り、プリントにまとめていった。資料として提示されたのは、A:「フェアトレードの認証商品を購入したらどうなるのか?」、B:「あなたならどのゴミを選ぶ?その理由は?」(安価、健康、サステナブルの視点)、C:「消費は将来どのようなことを起こす可能性があるのだろうか?」(大量消費について)の3つであった。これらの資料からわかることを出し合い、班ごとに「買い物にはどのような力があるのか」をまとめ、交流した。さらに、エシカル消費についての意識を確認した上で、本時の課題である「なぜ買い物は投票と言われるのか」について班でまとめ、全体交流が行われた。

【公開授業Ⅱ】大阪教育大学附属平野中学校 和倉 彰久 教諭 「少子化」

「私たちがどうすれば、人生の選択が自由にできる社会になるのか」という参画の問い (PQ) で行われた、単元のまとめの一時間であった。前時までに考えられたループ図(「少子化が進む」からスタート)を交流し、少子化問題を改善するための施策を中心に発表した。それを踏まえ、「私たちがどうすれば人生の選択が自由にできる社会になるのか」について、「人生の選択が自由にできる社会」からスタートしてループ図を班ごとに作成した。さらに作成したループ図の要素の中で、特に何が必要だと考えるかを、自分たちが描いたループ図の中から選んだ。最後に、自分の考えをプリントにまとめた。

4 全国大会から学ぶこと

①生徒の思考の連続性

上記どちらの授業も、毎時間のまとめを1枚のプリントに記入させることで、単元を通して自分の考えがどのように変化してきたのかが一目でわかるように工夫されていた。また、「問い」を大切に、各授業の問い (SQ) を中心に、細かな問いを通して、生徒の思考の連続性を図っていた。

②チェンジメーカーとしての自分

どの単元においても一貫してこれを意識し、単元のゴールに向かうことで、自らを社会に参画する一人として捉えさせることができる。自分がこの社会の中でどう考え、どう行動していくのかを考えることで、研究主題にもある「一人ひとりの未来につながる」社会科に迫っていた。